

地域ネットワークニュース

～10月の勉強会のお知らせ & 9月の勉強会報告～

第165回 地域ネットワーク勉強会

こころの相談室（精神保健相談室）の 取り組みから見えてきたもの



講師：小林保則氏 作業療法士

10月25日(火)

午後7時～午後9時

神栖市保健・福祉会館内

参加費無料

平成19年度に「こころの相談室」を開設して以来、寄せられる相談内容は障害や病気に関すること、自身や家族の悩み、仕事に行けないことの辛さ、服薬への不安、うつ病を患う社員への対応など様々で、相談者もご本人をはじめ、家族・親類・友人・職場の上司など多岐にわたっています。

また、精神科病院は何処にあるのか、精神障害者が使える福祉サービスは？、どこに相談に行けばいい？などの情報を求める相談も多く寄せられています。

これらの相談の対応をしていると、精神障害を抱えた方やその家族だけの問題ではなく、その方の住んでいる地域環境や職場などとの関連性が垣間見られます。

そこでこれまでの相談内容を振り返り、相談室の取り組みから見えてきた神栖市の精神障害者支援のあり方や地域特有の現状と課題について、当相談室の相談員であり、市精神保健デイケアのスタッフとして関わって頂いている小林保則さんにお話し頂きます。

興味のある方はもちろん、障害者の就労支援事業者、医療従事者、福祉サービスに携わる方々はぜひご参加下さい。

お問合せ：電話 0299-93-0294 神栖市社会福祉協議会 まちづくりグループ 三浦



第164回 地域ネットワーク勉強会報告 9月22日開催〈参加者19名〉

成年後見制度の理解と活用 ～実践から見えてきたもの～

講師：小林慎二氏〈阿見町社会福祉協議会〉

権利擁護センター「ばあとなあ」登録（社会福祉士/精神保健福祉士）

小林さんが後見人を初めて受任したのは8年前。当時は「対象者へ関わる福祉関係者や金融機関の方々でさえ、制度の理解が曖昧で、後見活動がやりにくかった」と振り返る。

試行錯誤のなかで、後見人として分かってきたこと。それは「後見人は万能ではない。だからこそ関わる人々の役割を知り、その役割を最大限に発揮できるよう手助けをすること。それが後見人としてできることであり、本人の利益と権利を守ることにつながることを感じた」と独りよがりの支援にならないように、周囲を良い意味で巻き込みながら、対象者を中心としたチームで支えていく大切さを実践と経験を踏まえて話をしてくださいました。

高齢者や障害者が本人らしい生活を送るために、支援者としてどう動くべきか、知っておかなければならないことは何か、支援者として常に追求しなければなりません。

時々刻々と移り変わる制度や社会環境を知っておくためにも、仲間を増やし、情報を共有できる支援者としてのネットワークを日常業務、日常生活から築いておくことが自分のスキルを高め、強いては相手を守ることにもつながることを知る機会となりました。